

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

②③

5プロ実施

経済協力開発機構（OECD）は先進国が国際経済に関して協議する国際機関だが、近年では科学技術イノベーション政策が主要なトピックになっている。検討の場の一つであるグローバル・サイエンス・フォーラムでは、OECD加盟国以外も含む参加国の代表が共通の政策的課題について議論する。

また、現状や問題点、改善方策などについて掘り下げた調査検

施中のプロジェクトは発生など過当競争の弊五つあり（表を参照）、害も生じている。それぞれ次のような背景・課題がある。

①わが国を含む多くの国で大学などの若手研究者の多くが有期雇用になるなど研究者の身分が不安定になっており、研究者の職業としての魅力が低下する。②大量のデータを利

規模な国際的施設のみならず、国内の研究インフラについても効果的・効率的な運営・利用が求められている。③社会課題解決のため、人文社会科学も、超学際研究と言われることもある。

④社会課題解決のため、人文社会科学も、超学際研究と言われることもある。

⑤公募による研究費配分の拡大に伴って、成功の確率は大きい

成果は小粒な研究が増えていて懸念されており、失敗のリスクは大きい。大きな成果も大きい研究を増やすことが重要となっている。

制約が顕在化

これら五つのプロジェクトは、いずれもわが国においても重要な課題であり、わが国からも積極的に参加している。科学技術イノベーションへの期待が高まる。同時に、研究コストの増大と財政的制約が顕在化する中、わが国を含め、多くの先進国が直面する政策課題には顕著な共通性が見られるようになって

（金曜日掲載）

科学技術イノベーション 先進国の共通課題



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター上席フェロー 岩瀬 公一

東京大学大学院理学系研究科、米ダートマス大学経営大学院修了。東北大理事、文部科学省政策評価審議官、JST社会技術研究開発センター長などを経て現職。2017年からOECDグローバル・サイエンス・フォーラム副議長を務める。

OECDグローバル・サイエンス・フォーラムで実施中のプロジェクト

- ①研究職の不安定さ
- ②データ集約的な科学のためのデジタル・スキル
- ③研究インフラの運営・利用の最適化
- ④トランスディシプリナリー（超学際）研究による社会課題への取り組み
- ⑤ハイリスク・ハイリワード研究